

深川純一パストガバナーについて

RLI 卒後コースで、「2680 地区の特性は何か」についてディスカッションがありました。「100 人のロータリアン」という冊子に、当地区からは松方幸次郎、小菅金造、直木太一郎、斎木亀治郎、今井鎮雄、田中 毅、深川純一の諸氏が掲載されていますが、この 7 人から推察して先程の課題について、当地区は職業奉仕に拘るロータリアンが多いという結論となりました。

当地区に限らず、日本には職業奉仕を重視するロータリアンが多いと云われています。当地区では、職業奉仕論を展開された伊丹クラブの故深川純一パストガバナーをその筆頭とすることは異論のない処です。

深川 PG は 3 代続く弁護士家系で、裁判所調停協会会長として、常に、法より心で調停したと伝えられています。また、社会福祉や教育の現場、更に人権擁護でも活躍されました。

伊丹クラブでは、「純ちゃんのコーナー」を 17 年間続けられ、その膨大な職業奉仕哲学は講演録として刊行されて、当クラブにも常備されています。

深川 PG は、「ロータリーは創立以来、いろんな理念や原理を開発して来たが、この素晴らしい知恵を学ぶべき」と考え、また奉仕の実践に於いては、ロータリーでの体験を重視しました。そして、ロータリー精神に準じて、寛容の心で自分と異なる思想を認め、至らざるを謙虚に学び、また現象より本質を見るべきで、そこから未来を展望すべきと考えました。

一方、故今井鎮雄 PG と共に RYLA 活動を 40 年以上続け、理論だけではなく実践することによりロータリー哲学は結実すると考えました。

学友会での記念講演に於いては、自由競争社会の敗者救済や共存共栄、そして、組織リーダーが世の為人の為に尽くす意義や、ロータリーの真髄を極めることで人間の魂の在り方を伺うことができると説きました。

また、深川 PG が理事長を務めた高校では「自分を愛することができて初めて、人を愛することや、世の中を考えることができ、真の仲間と出会える」と述べたと伝えられています。

丸尾研一 PG は、深川 PG の思い出について、「深川先生のスピーチを聞き、涙が出るほど感動しました。ロータリーに対する考えが変わっただけでなく、いかに自分がいい加減な人間だったかを思い知らされ、もっと成長しなくてはならないと気付きました。私の人生を変えてくれたスピーチと言っても過言ではありません」と語られています。

深川 PG について、限られた時間では紹介し尽くせませんが、幸い膨大な資料が遺されていますので、会員の皆様が深川 PG について学ばれ、ロータリーの理解が深まれば幸いです。